

独立行政法人航空大学校の令和 6 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が達成され、国土交通大臣による令和 6 年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員の解任等は行わなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	令和 6 年度評価における主な指摘事項	令和 7 年度及び 8 年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービス その他の業務の 質の向上に関する事項	安全指標に関する目標値について、特にヒヤリハットの報告件数が、目標は達成しているものの今年度非常に少ない。年を重ねる毎に改善、向上させるべきものであるため、中期計画期間の途中でも目標値をより良い数値に変更すべきではないか。	安全目標の指標の一つとしているヒヤリハット報告件数（年間 30 件以上）のあり方について、令和 7 年度に航空大学校内で検討した結果、令和 8 年度から、過去の実績値等を踏まえて年間 36 件を基準値とした上で、報告件数が基準値を下回る場合には、ヒヤリハットを報告しやすい環境となっているかどうかについて分析を行い、評価にあたっては、報告件数だけでなく、その分析の結果も勘案することとしました。
	自己評価書に記載の取組は確認できたものの、訓練遅延は依然として改善しておらず、リソースは限られてはいたが、その中で十分に計画的な訓練が実施できていたとは言えないことから、訓練進捗の管理を強化する等の更なる改善が必要である	令和 7 年度においては、訓練機の増機や訓練シラバスの効率化、標準訓練時間の設定による教官の意識の向上に加え、訓練進捗管理の厳格化などの取組みを進めました。その結果、令和 7 年度の学生訓練時間は令和 6 年度比で 21% 増となり養成能力を改善させており、105 名（計 4 クラス）が卒業しま

		した。
業務運営の効率化に関する事項	これまでも訓練シラバスの短縮に取り組んできたが、知識・技能の定着に影響したことから、更なる効率化に慎重となった可能性があるものと推察される。一方で、結果的に卒業まで3年半を要する状況になっていることから、シラバス時間の削減等の更なる改善が必要である	令和7年度においては、「運営協力会議」の下に「シラバス検討部会」を設置し、航空局・航空会社と連携し、令和10年度適用目途で訓練シラバスの抜本的な見直しを行う等の対策を取りまとめました。また、「航空大学校の養成に関する検討会」を踏まえ、航空局・航空会社と連携し、従来の運営における課題を抽出・分析し、訓練遅延・待機学生の早期解消に向けた蓋然性の高い道筋を設定し、順次取組みを進めています。
財務内容の改善に関する事項	なし	—
その他の事項	なし	—